

男性の要介護者衣服検討に関する研究 (2)

—衣生活を中心とした介護に関する意識—

○石原久代* 小町谷寿子* 原田妙子** 間瀬清美* (* 名古屋女大 ** 名古屋女大短大)

【目 的】介護保険の導入により家庭での介護がクローズアップされ、それに伴い多くの介護用品が商品化されている。それらの多くは介護する側の利便性を重視している一方、要介護になって強いられる衣生活の変化は、介護される側にとって大きな精神的負担になると想定される。そこで本報では、介護される側にも負担の少ない男性用衣服を検討するために、自分が要介護者になった場合の衣生活について調査し、検討を行った。

【方 法】1)調査対象者・2)実施時期:第1報と同じ 3)調査内容:要介護者になった場合に変えたくない服種、変えることに抵抗のない服種、身に着けたくない服種、衣服のゆとりの嗜好、重ね着の習慣、また尿漏れパット、安心パンツ、紙オムツなど介護関連用品についての認知度と老後尿漏れを起こすようになった場合におけるの商品の受け入れに対する意見を調査した。併せて関連項目として食事、トイレ、就寝形態等の現状と好みについても調査した。

【結果および考察】要介護者になっても変えたくない服種には下着類が多く、中でもトランクスが最も多かった。このトランクスへの拘りは若年ほど高く、逆にブリーフへの拘りは高齢者ほど高くなっている。介護の大きな問題に排尿があるが、最も関連する下着に大きな拘りがあることは慎重な検討を要するといえる。さらに尿漏れに関する介護用品の中では、紙おむつの認知度が最も高く、次いで安心パンツ、尿漏れパットの順であったが、使用については安心パンツを使用したいという人が最も多く、紙おむつ、尿漏れパットの順であった。また、自分で歩けるが漏らしてしまう場合や歩くのに補助が必要な場合に安心パンツや紙おむつを積極的に使用したい人は、50・60歳より10・20・30歳代の方が多いことがわかった。